

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 2 区分

【発行日】平成22年7月1日(2010.7.1)

【公表番号】特表2007-500599(P2007-500599A)

【公表日】平成19年1月18日(2007.1.18)

【年通号数】公開・登録公報2007-002

【出願番号】特願2006-521407(P2006-521407)

【国際特許分類】

B 2 1 B 31/10 (2006.01)

【F I】

B 2 1 B 31/10 H

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年5月6日(2010.5.6)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ロールスタンドのバックアップロールの圧延ロールネック(1)の上に、もしくは、このロールスタンドのバックアップロールの圧延ロールネック(1)から、そのチョック内に配設された圧延ロールネック軸受を有するチョックから成る軸受ユニット(3)を、装着および引出しするための装置において、

ロールの軸線方向に延在する締付けアンカー(5)が、圧延ロールネック(1)にグリップされていること、

この締付けアンカー(5)が、この締付けアンカーの上で、軸線方向に位置移動可能なキャップ円板(6)を担持し、このキャップ円板が、一方では、この締付けアンカー(5)の上で捻り移動可能なナット(8)に、および他方では、軸受ユニット(3)に支持されていること、および、

このナット(8)には、液圧的な予負荷工具(16)が、一時的に組み込み可能であり、この予負荷工具を介して、装着力が、この締付けアンカー(5)と、この軸受ユニット(3)に支持されるキャップ円板(6)との間で付与可能であること、および、引出しユニット(11)が、一時的に軸受ユニット(3)と連結可能であること、および、

この引出しユニット(11)の液圧シリンダー(15)が、圧延ロールネック(1)に支持することができるように構成されていること、

を特徴とする装置。

【請求項 2】

ナット(8)は、締付けアンカー(5)が予負荷された際に、キャップ円板(6)に対して圧接可能であり、且つ、締付けアンカー(5)とナット(8)との間の張力によって、自己制動状態で、誤回転防止されていることを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

キャップ円板(6)には、誤回転防止装置(9)が設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の装置。

【請求項 4】

液圧的な予負荷工具(16)は、ロールの静止状態において、締付けアンカー(5)に連結可能であり、且つ、外部の液圧供給源によって駆動された状態でキャップ円板(6)に対して圧接可能であるように構成されていることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれ

か一つに記載の装置。

【請求項 5】

引出しユニット（１１）は、１つのロールの両方の軸受のために使用可能であるように構成されていることを特徴とする１から４のいずれか一つに記載の装置。

【請求項 6】

引出しユニット（１１）は、軸受ユニット（３）とねじ止め可能であるように構成されていることを特徴とする１から５のいずれか一つに記載の装置。

【請求項 7】

引出しユニット（１１）は、パヨネット結合部を介して、軸受ユニット（３）と連結可能であるように構成されていることを特徴とする１から５のいずれか一つに記載の装置。

【請求項 8】

引出しユニット（１１）は、軸受ユニット（３）を裏からグリップするかぎ爪を有していることを特徴とする１から５のいずれか一つに記載の装置。

【請求項 9】

液圧シリンダー（１５）は、強固に圧延ロールネック（１）と結合された締付けアンカー（５）に支持されていることを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか一つに記載の装置。

【請求項 10】

予負荷工具（１６）および引出しユニット（１１）は、別個に、相互に軸受ユニット（３）と連結可能であるように構成されていることを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか一つに記載の装置。